

- 桜島小みかんは、「かごしまブランド産地」に指定されているが、生産者の高齢化等により生産量の減少が進み、**産地維持が大きな課題**である。
- 産地維持を図るため、**樹園地の現状把握**、**講習会開催の工夫**、**生産技術実証結果の普及**、**優良系統転換に向けた技術対策**、**生産意欲向上対策**等に取り組んだ。
- その結果、**講習会の活性化**や目標とする**L・M果率向上**等につながった。また、**GI(地理的表示保護制度)取得**により、桜島小みかんが注目され、**生産意欲が高まった**。

具体的な成果

普及指導員の活動

1 樹園地の転換推進

■ 1筆毎の園地状況調査で、**93%が樹齢20年以上**であり、段階的改植の必要性を明確化。→優良系統への転換推進に活用。

2 講習会の活性化

■ 開催場所

1カ所→2カ所に増。

→高齢生産者が参加しやすくなった。

■ 開催回数

3回→6回に増。

→生育ステージに応じて技術習得等ができるようになった。



3 L・M果率の向上(共販実績)

■ 実証結果を基に摘果サイズ見直し

→目標とする階級L・M果率が平成25～28年平均70.5%から**平成29年75%に向上**。

4 紅系小みかんの特性把握・技術確立

■ 品質や肥大の特性を把握。

■ **冬季ジベレリン処理**は、花芽抑制効果が高く、省力化技術として有効であることを確認。→改植後の省力化対策・樹勢維持。

5 GI取得による生産意欲向上

■ **新聞、ラジオ、テレビ等各種メディア等活用**しPR。生産者の励みとなり、生産意欲が向上。



平成26年度

■ 1筆毎に作物名を記載した**地図を作成**。

平成26～28年度

■ 紅系小みかんの果皮色、糖度等果実品質の**調査及び分析**。

平成28～29年度

■ **関係機関・団体の検討をふまえ**、生産者への説明・合意形成・申請等を支援。

平成29年度

■ 関係機関・団体を構成する**桜島果樹技連会を支援組織に位置づけ**、産地維持に向けた課題と対策を整理。

■ 樹齢・樹勢・系統・ハウス型式・管理等を調査。

■ 高齢農家が多いこと、退職後に就農した生産者が多いこと等**分析**し、開催場所、開催回数を**提案**。

■ **技術実証ほでの栽培管理講習会**等実施。

普及指導員だからできたこと

・市、農協と連携し、**総合力を活かす**ことで、効率的かつ効果的な活動が展開できた。

・**普及指導員のコーディネート力を活かし**、産地の課題整理・分析、対策の策定・実践を進行管理できた。

桜島小みかんの産地育成支援

活動期間：平成26年度～継続中

1. 取組の背景

桜島小みかんは、安心・安全で品質の良い農畜産物を安定的に生産出荷できる産地として県が指定している「かごしまブランド産地」に指定されているが、生産者の高齢化等により生産量の減少が進み、産地維持が大きな課題となっていた。

そこで、産地維持を図るため、関係機関と連携して、樹園地の現状把握、講習会開催の工夫、生産技術実証結果の普及、優良系統転換に向けた技術対策、生産意欲向上対策等に取り組んだ。



< 樹園地調査 >

2. 活動内容（詳細）

(1) 樹園地調査による現状把握

1筆毎に樹齢、樹勢、系統、ハウス型式、管理状況等を調査した。

(2) 技術レベルの向上対策

高齢生産者が参加しやすいように、講習会の開催場所を1カ所から2カ所に増加した。また、開催回数も3回から6回に増やし、生育ステージに応じた技術指導を行った。



< 栽培管理講習会 >

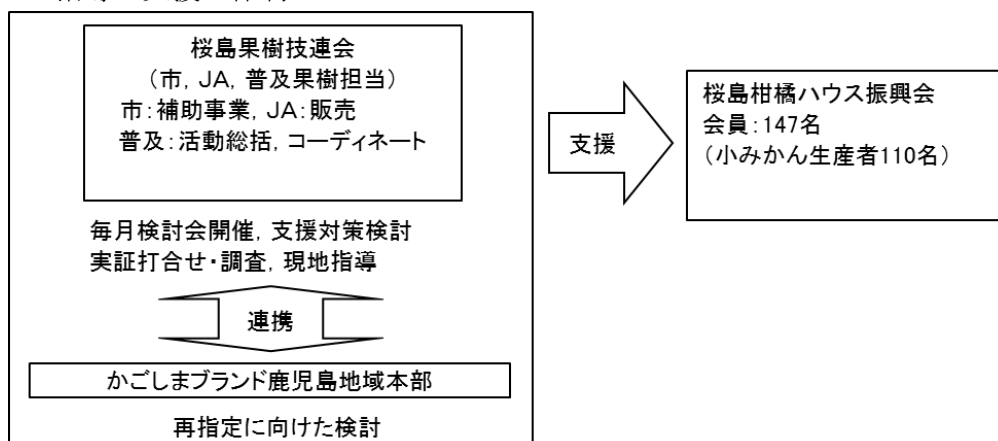
(3) L・M果率向上対策

摘果サイズを変更した実証ほを設置した。また、実証ほ調査と同時進行で講習会・現地巡回指導を実施した。

(4) 優良系統（紅系小みかん）の特性把握・技術対策

紅系小みかんの特性調査を3カ年かけて実施した。また、今後苗木導入を推進する際に課題となる、幼木期の花芽摘みの労働時間削減を目的に冬季ジベレリン処理の技術実証ほを設置した。

< 指導・支援の体制 >



(5) G I（地理的表示保護制度）取得支援

G Iの取得に向けて、平成28年度から関係機関で打合せ、また、生産者検討会を行い、取得に向けた合意形成を図り、平成29年11月にG Iを取得した。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 樹園地の転換推進

調査の結果、調査園の93%が樹齢20年生以上であり、段階的改植の必要性がわかった。この結果を基に、樹齢が高く生産性が低い園について優良システムへの転換を推進している。

(2) 講習会の活性化

開催場所の増加で、高齢生産者が参加しやすくなった。また、開催回数の増加により、生育ステージに応じた技術習得が可能となった。

さらに、講習会終了後に生産者間の技術交流の場ができ、就農して間もない農家が先進農家から栽培技術のアドバイスを受ける等、研修効果が高まった。

(3) L・M果率の向上

実証ほを活用した講習会や現地指導により、平成29年産L・M果率が、H25～H28実績よりも4.5%向上した(表1)。

表1 L・M果率（共販実績）

H25～H28 平均	H29 実績
70.5%	75%

(4) 紅系小みかんの特性把握・技術確立

紅系小みかんの品質や肥大の特性把握ができた。また、冬季ジベレリン処理は、花芽抑制効果が高く、省力化技術として有効であることが確認できた。このことから、従来の小みかんから紅系小みかんへの改植後の省力化や、樹勢維持対策として活用できることが分かった。

(5) G I取得による生産意欲向上

新聞、テレビ等各種メディアを活用して「桜島小みかん」をPRしたことで知名度も上がり、このことが生産者の励みとなり、生産意欲が向上した。

4. 農家等からの評価・コメント

講習会の開催場所が増えて、参加しやすくなった。また、質問もしやすくなった。

紅系小みかんは、着色が遅い地域に導入することで出荷時期の前進化につなげたい。また、改植により園地の若返りを進めたい。

5. 普及指導員のコメント

（鹿児島地域振興局農林水産部農政普及課 参事付 鮫島義幸）

これまでの取組で、生産者の小みかん栽培に対する機運が高まっている。今後も、桜島地域の主要な品目である小みかんの産地維持が図られ、地域農業振興への貢献にも繋がるよう支援を継続していきたい。

6. 現状・今後の展開等

(1) 今後の課題

経営モデル策定や基礎的研修会の開催等による定年帰農者の経営安定や、紅系小みかんの摘果方法や肥培管理等の栽培技術の確立

(2) 今後の展開

樹園地調査の結果をもとに、紅系小みかんの改植推進等行うとともに、施設整備等を含めた樹園地再編等を検討する。